

申請者名 板倉聖哲

プロジェクトのタイトル 東アジア絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクト

(1) プロジェクト全体計画 (概要・目的・意義など)

本プロジェクトはこれまで継続して行ってきた中国絵画デジタル・アーカイブ・プロジェクトを基礎として、さらなる発展を目指すものである。アジア美術画像 アーカイブ・プロジェクトの中心をなす中国絵画のアーカイブをより充実させるため、科研等で新たに収集した資料を加工・整理し、公開していく。

これまでに公開した「中国絵画所在情報データベース」は国内外のアクセスがあり、世界的にも認知されてきた。又、2010年完成した「東アジア絵画史研究 文献目録」も日本の研究を世界に知らせる役目を果たしている。本プロジェクトでは、昨年試験的に掲載した画像を本格的にイントラで公開することを目指し、同時に、新たな画像データベース「幕末期中国絵画所在情報データベース」の作成に取り組む。

(2) 今年度の進捗状況

具体的な作業としては、8月16日～20日まで去年に引き続き谷文晁一門の粉本調査を実施、撮影を行うとともに、この機会に参加した多くの研究者と意見交換を行った。また、今年度から「幕末期中国絵画所在情報データベース」の一部として「谷文晁派 (写山楼) 粉本・模本資料データベース」として画像公開を開始した。地震のため3月に予定された公開開始が遅れ、5月から試験公開を行い、その後は画像を順次整理して加えていき、現在では588件の画像データを公開中。

(3) 公開済の具体的な成果物

「谷文晁派 (写山楼) 粉本・模本資料データベース」 2011年5月より公開開始 <http://cpdb.ioc.u-tokyo.ac.jp/edo/buncho.html>

それに伴う研究成果

拙稿「幕末期における東アジア絵画コレクションの史的位置－谷文晁の視点から」
『美術史論叢』28号 2012年3月